



▲英岩々陵の突端からの俯瞰する／左:有田磁石場、右:有田内山の街



▲有田内山の街並みから望む英岩と前黒髪尾根

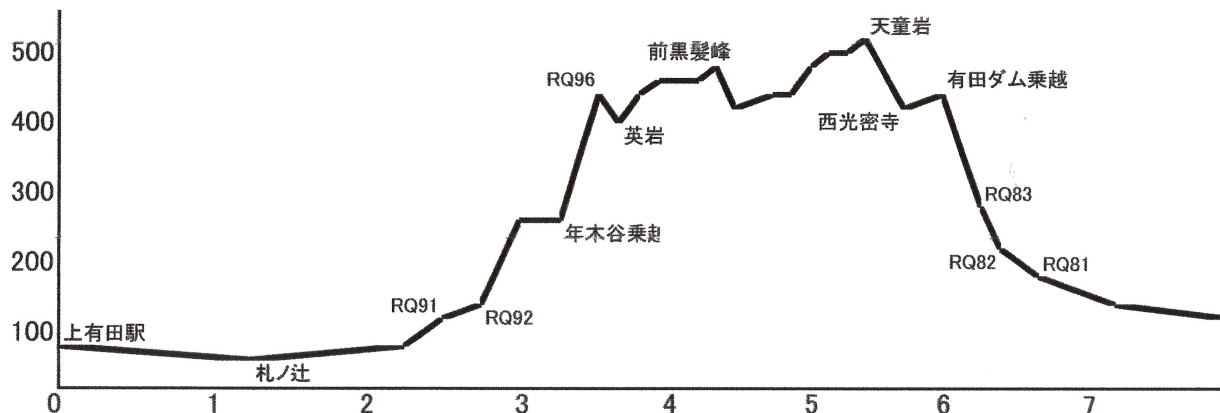


▲泉山の大公孫樹から見上げる英岩

コースタイム

JR上有田駅	15分	札の辻交差点(信号灯)	20分	有田ダム下駐車場登山口	30分	歳木谷乗越 RQ94番	30分	有田ダム下降点/RQ96番
有田ダム下降点/RQ96番	15分	英岩 RQ9番	15分	有田ダム下降点/RQ96番	30分	前黒髪峰 RQ8番	30分	有田ダム乗越/RQ85番
有田ダム乗越/RQ85番	35分	天童岩 RQ7番	15分	西光密寺 RQ75番	5分	有田ダム乗越RQ85	20分	顔の岩屋
顔の岩屋	15分	奥白川谷登山口/RQ80番	10分	白川 キャンプ場	15分	有田ダム下駐車場登山口		

高低図



英岩:連山最南端の岩場に立ちて思う山

山名 RQNo. 9 英岩(はなぶさいわ)
RQNo. 8 本城岳(通称:前黒髪峰)
RQNo. 7 黒髪山(山頂:天童岩)

ルート No.4-4 前黒髪から天童岩、有田ダムへ下山

登山口 RQNo. 90 有田ダム下駐車場

最寄駅 JR 上有田駅

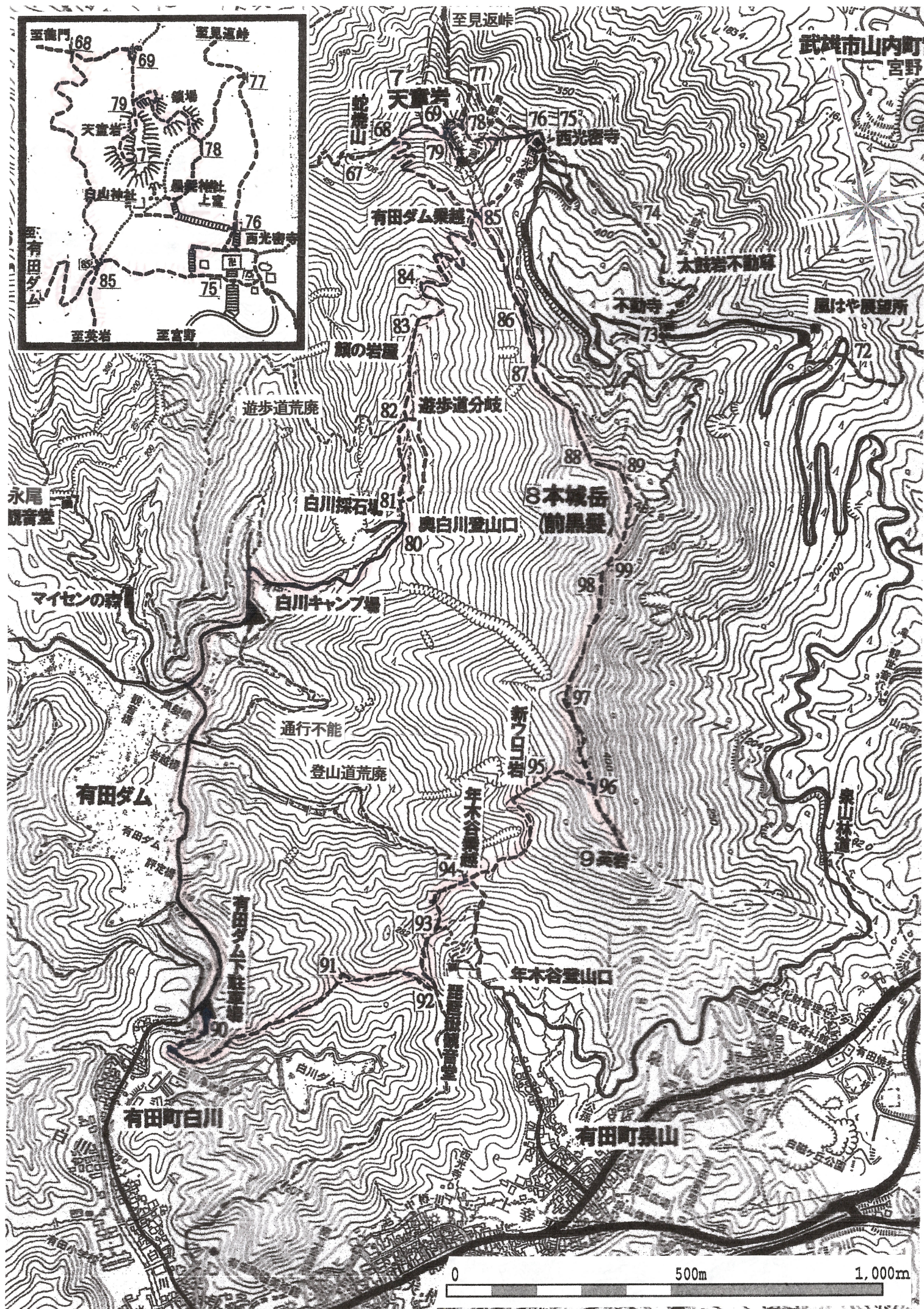
白川森病院まで町営バス移動が可能。そこから登山口まで1kmの車道歩きが必要

駐車場 有田ダム下駐車場

30台可能／公衆便所あり

(注) RQの意味

レスキューポイントの意味です。
本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、



アプローチ



▲黒髪山頂天童岩を目標に進む



▲有田ダム下駐車場／登山口はこの奥にある

公共交通機関利用の場合

JR佐世保線上有田駅から東(左)へ進み、道なりに坂を登ると国道35号に出る。

正面に大きな和風建築の福祉施設が見える。

そこが町営バス停で、有田駅へ向かうバスに乗り、有田小学校前バス停で下車する。

車道をまっすぐ進むと有田ダムで、バス停から北へこの車道を歩く。

すぐに天狗谷古窯跡入口を通過し、右手の白川墓地を見て進み、右方向へ湾曲すると、家並みの間に大きな天童岩が正面に見えてくる。

目指す黒髪山の山頂である。

車道をさらに進むと、車道は川沿いに大きく湾曲し、万寿橋を渡ると右手に、トイレのある駐車場がある。登山口はこの駐車場の南(右)奥にある。

車道をまっすぐ進むと有田ダムで、下山時はこの道を下りてくる。

マイカー利用の場合

カーナビ設定:有田ダム事務所(☎0955-42-3394)

有田陶器市のメイン会場である県道281号の札の辻交差点から西へ折れ進む。

民家や焼物工場の街並みを1kmも走ると、有田ダムへの上り坂となる。

有田ダム事務所はこの坂の上だが、駐車場は坂を上らず手前の右手にある。

下山時にダム事務所を通過し、この坂を下って来ることになる。

駐車場入り口の和風建築の建物がトイレで、登山口は駐車場の南奥にある。

登山ルート



▲登山口RQ90番



▲取り付けの支尾根岩稜



有田ダム駐車場から英岩へ

登山口(RQ90)から植栽クマザサのある階段状の道を登ると支尾根に出る。

尾根から南(右)眼下に水道事業所が見え、やがて白川ダム湖水に変わる。

北(左)には有田ダム(愛称:秘色湖)の湖水が見える。

この湖水は、神秘的で鮮やかな色合いで佇み、異彩を放っている。

尾根をいったん下り、森の中に入る。広い尾根を登り、RQ91番で登山道は南へ向きを変え、ほぼ同じ等高線上で森をトラバースする。

森を抜けると小さな吊り尾根(RQ92)に出る。正面に英岩が迫っている。

南(右)へ尾根を渡れば英岩展望台だが、

前黒髪尾根への経路地、歳木谷乗越へは北(左)へ進む。

登山道が再び下る所(RQ93)で、道標に従い左手の森の中へと進む。

踏み跡たよりに斜面をトラバースし、ザイルを手掛かりに谷を横断する。

再び斜面をトラバースして、小さな谷を渡り、支尾根を北(左)へ登って尾根に立つ。

その尾根を東に進み、もろい岩尾根を下って森に入ると、

歳木谷乗越(RQ94)の辻に着く。

この辻は、南(右)へ下れば泉山の集落で、日本磁器発祥となった白磁が丘陶石場や天然記念物の大銀杏樹は一見の価値がある。

下山後に時間があれば立ち寄りたい。

北(左)へ植林帯を下れば神秘的な湖水の有田ダムだが、登山道は荒廃している。

◀ RQ92番の吊り尾根から前黒髪尾根。中央の岩場(新うろこ岩)が取り付けルート



▲新うろこ岩を登る



▲英岩転落事故の追悼碑



▲前黒髪尾根の樹林の道



▲前黒髪峰を過ぎると展望が広がる



▲RQ86番の遊歩道分岐

前黒髪尾根まで急登しきり

英岩への登山路は、年木谷乗越の辻を東(まっすぐ)へ進む。
植林帯の中を緩く登り、右の尾根に移れば、次第に傾斜もきつくなる。
植林帯を松葉を踏んで高度を上げ、岩を踏み越えると、やがて大きな岩場に出る。
新ウロコ岩で、岩に足場が刻まれている。ペンキマークに従い登っていく。
岩場が不安の人は、岩場取り付けの右手斜面の木立の枝に着けた黄色紐を目印に分け入ることも可能。
岩場からの景観も見事で、有田ダムの湖水の向こうに、国見連山が見えている。
岩場はそのまま続き、ザイルたよりに登り、RQ95番で岩場迂回路と合流する。
ここから灌木の急斜面を登りきると、1枚の岩壁を乗り越すようになり、
すぐに森の中に入る。その斜面を直登して、しだいに右手へ進む。
傾斜がきつくなった所にザイルがあり、それを伝って乗り越す。
そこは前黒髪尾根で、ここを下山する時の下降点(RQ96)である。
英岩へは南(右)へ進み、すぐに岩陵に出て、ペンキマークに導かれて
再び灌木の尾根に入る。もったいないぐらいに下ると灌木が切れ、
英岩(RQ9)に着く。岩壁の尾根を突端まで進むが、
一度灌木部があり、岩塔を西へまわり込むように進むと突端に着く。
小さな祠があり、昭和36年の転落事故を悼む陶板がある。
直下に白磁が丘陶石場、西へ有田の街並みが続く。

前黒髪峰を経て天童岩直下へ

黒髪山頂の天童岩を目指して、長大な前黒髪尾根を北上する。
有田ダム下降点まで、来た道に戻り、下降点からも尾根の踏み跡をたどり、
まず岩峰の英山を越える。登山道は山頂の西脇を通過している。
すぐに小さな下りの後、またすぐに小さな登りとなって無名ピーク(RQ97)を越す。
その後は、灌木の中のなだらかな尾根歩きとなり、RQ98番を過ぎて、
すぐに小さな鞍部(RQ99)へ着く。
そこから登りとなるが、途中、木立の中に小さな分岐があり、左へ進むと、
分岐からひと登りで前黒髪峰(RQ8)である。展望は無い。
右へ進むと、前黒髪峰の脇を通りすぎてRQ89番に出る。
前黒髪峰山頂は灌木に覆われて展望がないので、そのまま北(まっすぐ)へ進み、
RQ89番の遊歩道に出て北(まっすぐ)進むと、すぐに視界が開け、
目指す黒髪山頂天童岩を中心に、青螺・牧山が揃い踏みで出迎えてくれる。
RQ89番の遊歩道から南東(右へ戻る)へは不動院へ下る遊歩道である。
天童岩への遊歩道はザラメ状の岩陵に変わり、滑落に注意して下る。
RQ88番から再び低木帯に入り、登山道を下って行き、遊歩道に出る。
正面には黒髪山頂の天童岩が厳しい姿で招いている。
遊歩道の分岐(RQ87)に出る。東(右)へ下る遊歩道は不動寺へ向かう。
北(まっすぐ)へ進むと西(左)に露岩があり、遊歩道から離れてそれを乗り越すと、
岩陵となり、眼下に有田ダムの湖水が見えてくる。
天童岩は森に隠れて見えなくなる。その森へ向かって北(まっすぐ)に進む。
RQ86番で、再び遊歩道と会う。
この遊歩道は北東(右)へ下り、西光密寺旧駐車場に降り立つ。
天童岩へは北(まっすぐ)の尾根道に入り、尾根の踏み跡を登っていく。
やがて植林帯に変わり、なだらかな台地状となり、有田ダム乗越の辻(RQ85)に着く。
この辻は、西(左)へ下ると有田ダムの奥白川登山口。
天童岩から西光密寺を経て、この分岐に時計回りに戻りて有田ダムへ下る。
東(右)への下りは西光密寺への道。天童岩登頂の後で、この道を登ってくる。
天童岩へは、この辻を北(まっすぐ)へ進む。



▲天童岩鎖場の迂回路を登る



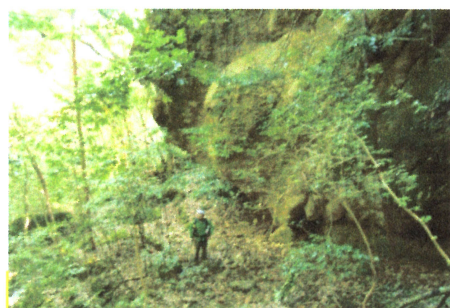
▲天童岩とナイフリッジ／横風に注意



▲天童岩鎖場は3点確保で慎重に下る



▲有田ダム乗越から下山する



▲顔(つら)の岩屋

黒髪山頂の天童岩へ

登山道は黒髪山頂部の西側斜面をトラバースするように刻まれている。
この道は天童岩鎖場の迂回路ルートとして使用されている。

分岐からほぼ同じ等高線上を進み、天童岩直下で登り傾斜となり、枝沢を登る。
立派な杉樹の所から東(右)へ方向を変え、蛇焼山の南斜面に刻まれた登山道を
ジグザグに高度を上げて登り、ザイルの所で西(左)へ向きを変えて登ると、
後黒髪尾根の分岐(RQ68)に登り着く。

分岐路を西(左)へは、蛇焼山から後ノ平を経て龍門へ下る道で、
黒髪山頂天童岩へは、この分岐を東(右)へ登る。

すぐに天童岩の肩(RQ69)に出て、南(右)へと向きを変える。

樹林の肩を進み、RQ79番で鎖場への下り道を東(左)に見送り、
木立の間に見える天童岩へ進む。

岩の間を抜け、ナイフリッジを通過して、岩を西(右)へまわり込む。

ナイフリッジの左右は切れ落ちているので風の強い日は要注意だ。

天童岩の最後「三の鎖」を登りきると、標高こそ518mの低山ではあるが、
さえぎるものの無い360度の大自然が待っている。

山頂部南端の岩場に、有田焼陶板が設置され、肥前の名山を確認することができる

天童岩から有田ダムへ/西光密寺経由

有田ダムへは登ってきた道を引き返して、乗越の辻から下山も可能だが、
鎖場を下り、西光密寺経由で下山してみたい。

岩を下りて肩(RQ79)に戻り、鎖場へ取り付く。

上り優先なので、登攀者を確認しながら下る。

近年、梯子やステップも設置されたが、3点確保で安全に通過したい。

セメント貼り道に出て、ザイルに従い下ると分岐(RQ78)があり、南(右)へ進む。

北(左)は見返峠への近道で、RQ77番から西光密寺へ向かう遠回りルートでもある。

南(右)へ進み、すぐ東(左)へ下りている。やがて階段道になり、下ると広場に出る。

広場から西(右)は白山神社(旧黒髪神社上宮)である。

東(左)へ、階段道を下ると分岐(RQ76)に着く。

分岐から北(左)はRQ77番を経由して見返峠への道である。

南(右)の階段道を下ると、西光密寺の裏にある広場に着く。

広場の西(右)端に階段道もあるが、石仏像の脇から東(左)へ進み、

シャクナゲ植栽のある庭を下りていくと、西光密寺の洗い場に着く。

表に廻り込み、鳥居のある広場に下りる。

鳥居下の階段道は住吉城址への下山ルートで、黒髪山No.4-2を参照されたい。

有田ダムへは西(寺に向かって左)へ進む。

広場の西端から登山道になり、すぐに有田ダム乗越の辻(RQ85)に戻る。

有田ダムへ下山

辻から南(左)への道が、これまで歩いてきた前黒髪尾根の道である。

有田ダムへは辻を西(まっすぐ)へ下る。この下山路は昔から「7曲り」と呼ばれてきた
踏み跡ははっきりしていて、ターンを繰り返していくと、

RQ84番で階段状の道に変わる。

その後の石を敷いた道は、滑りやすいので注意する。

沢を渡り、石段状を下っていくと、右手に「顔(ツラ)の岩屋」と呼ぶ大きな
岩屋を過ぎると、すぐに分岐(RQ82)に出る。

変形4差路となっていて、有田ダムへは登山道を南(まっすぐ)へ進む。

東(左)へ下りる道は有田ダムへ通じる生活環境保全林の旧遊歩道で、

RQ81番で登山道と合うが、整備が行き届かず、荒れてきている。



▲登山道と遊歩道が交わるRQ82番に下り着き、大きな道標に従い登山道を下る。



▲奥白川谷の清流(RQ81)は冷たく美味しい

西(右)へ登る立派な階段道も、それと同じ旧遊歩道だが、荒廃して進めない。登山道を南(まっすぐ)下っていくと、すぐに樹木の根が張り出した急な下りとなり、平坦になって右手に回り込み、岩の間を下って沢(RQ81)に下りつく。

きれいな沢水で喉を潤し、顔も洗いたい。

この沢を渡って左岸の道に出る。RQ82番の分岐で別れた旧遊歩道と会う。

この道を下っていくと、すぐに林道に出る。

ここが、奥白川登山口(RQ80)で、林道の先はゲートがあり、その先は陶磁器焼成の原料となる釉石の碎石場であった。崩落もあり入れない。

林道を下ると、やがてアスファルト車道に変わり、

有田ダム奥の白川キャンプ場に着く。

湖水を見ながら進むとT字路に着く。西(まっすぐ)へは、応法・黒牟田の窯場である南(左)は有田ダム下駐車場そして上有田駅方面である。

みどころ



▲古賀忠雄「仏心像」と湖水



▲有田ダムの湖水に映す登り来し天童岩

秘色の湖(有田ダム)

昭和35年に完成(湛水)した多目的ダムで、総貯水量は118万トン。

このダムの湖水は、翡色青磁を想わせる色合いで佇んでいます。

とくに4月から8月にかけて、晴れた日の朝夕には神秘的な深まりを見せます。

その湖水の秘密は、陶石などに含まれる明礬の成分が関係していると考えられます

昭和58年に、有田ダムを訪れた詩人の山本太郎と画家の森徹は、

この神秘的な湖水を見て「秘色の湖」と名付けました。

黒髪山から奥白川谷を下山してきた時、林道のゲートの先にあるのが、白川釉石碎石場です。

釉石は、陶石の1種で比較的に耐火度が低く、昔から釉薬に使用されてきました。

有田ダムができる前は、この釉石を山積みした馬車が、有田皿山の窯場へ下っていたのも、この谷の風物詩でありました。

この湖水の下には、大蛇退治の伝説にまつわる「評定場(台地)」が眠っています。

その台地は、昭和15年に射撃演習場として整備され、

戦後は町民グラウンドとして活用されてきました。

昭和20年代まで、このグラウンドの縁を陶石を載せた馬車が行き来し、

清流のほとりには、有田焼窯元や皿山の料亭が所有する東屋が数軒ありました。

その景観も、昭和35年の有田ダム湛水とともに、湖水の底に眠ってしまいました。

昭和58年から、有田ダム一帯で、生活環境保全林改良事業が実施されました。

作業道路が遊歩道となり、白川キャンプ場もこの事業で誕生しました。

平成10年頃までは散策者や行楽客など利用者も多かったのですが、

自宅で飼いきれなくなった猫を捨てに来て、

さらにその猫に餌付けする偽愛猫者もいて、

そんな“わがまま族”が、この自然景勝地を崩壊させてしまいました。



ベニドウダン

ツツジ科

黒髪山系の植物：167ページ

樹高 2～4mの落葉小高木。

葉 枝先に集まって付き、葉柄は短い。

花 釣鐘状の紅色が印象的で、花弁の先が細かく裂けるのが特徴。開花期：5月

和名の由来

黒髪連山では、シロドウダンに近い色のものまである。



ザイフリボク

バラ科

黒髪山系の植物：132ページ

樹高 陽当りのよい所に生える5mの落葉小高木。

葉

花 白色の線形の長い花弁

普段は目立たない木であるが、開花期は目立った存在となる。

開花期：4月

和名の由来

花の姿を武将が振る采配に見立てた



ハナゼキシウ

ユリ科

黒髪山系の植物：23ページ

植生 薄暗い湿った岩場に生える。高さ15～25cmの多年草

九州では、黒髪連山と宮崎県で見られる程度の希少植物

葉 根生し、線形で、葉縁に鋸歯や切れ込みは無い。

花 他種に比べて花柄が長い。

花序は総状で、小さな白花を多数つける。開花期：7月

和名の由来

別名 イワゼキシウとも。

オシドリ

フィールドガイド「日本の野鳥」：44ページ

大きさ 雄・雌：45cm

習性 東アジアに繁殖する留鳥または漂鳥。

山間の溪流に生息することが多いが、林に囲まれた池や湖にもいる。

淡水ガモ類よりも木に止まることが多く、巣は樹洞につくる。

鳴き声 クイツ、クェツなどと鳴く。

特徴 雄は美しく複雑な色彩斑紋をしていて、頭部の羽毛は冠羽状になっている。

三列風切の内側羽は、帆の形で目立ち、銀杏羽と呼ばれる。

捕食 地上や水面で植物質の餌を採る。

ハヤブサ

フィールドガイド「日本の野鳥」：180ページ

大きさ 雄：38cm、雌：51cm 翼開張：80～120cm

習性 岩壁のある海岸や原野

鳴き声 ケーケーケーと鳴く

特徴 体の上面は暗青灰色で、頬に髭状の黒斑がある。

下面は白く、腹は黄褐色で黒斑がある。

捕食 飛んでいる鳥類を急降下して蹴落とし、捕らえる。

特記事項 黒髪連山では、英岩や天童岩で見られ、英岩周辺で無数カラスが一斉に啼きわめいた時があったが、そんな時はハヤブサが上空を飛来していたのだろう。